令和５年度　全国学力・学習状況調査　結果について

令和５年度全国学力・学習状況調査（令和５年４月 １８日実施）について、名瀬中学校と全国公立中学校との比較による結果と考察をお知らせします。

		（平均正答率）	名瀬中	全国
国語	知識・技能	言葉の特徴や使い方	65.9	67.5
		情報の扱い方	70.7	63.4
		言語文化	78.0	74.7
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	87.1	82.2
		書くこと	68.5	63.2
		読むこと	72.0	63.7
	全　体		75.0	69.8
数学	数と式		69.4	63.0
	図形		39.6	33.2
	関数		60.2	51.2
	データの活用		49.2	48.5
	全　体		57.0	51.0
英語	聞くこと		67.0	58.4
	読むこと		63.0	51.2
	話すこと（やりとり）		16.6	14.5
	話すこと（発表）		3.8	4.2
	書くこと		40.5	23.4
	全　体（話すこと以外）		58.0	45.6
	全　体（話すこと）		14.0	12.4

ほとんどの項目で全国平均を上回っています。特に思考力、判断力、表現力の中の「読むこと」と、「記述式」の問題形式において、力を発揮しました。「正しく漢字を書くこと」については若干課題が見られました。

すべての項目で全国平均を上回りました。特に「関数」の領域において高い正答率を示しました。「箱ひげ図から説明すること」については若干課題が見られました。

ほとんどの項目で全国平均を上回りました。特に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については高い正答率を示しました。「聞いたことについて自分の考えと理由を述べること」については若干課題が見られました。

全体的に、学習（授業）に関して、前向きに取り組んでいる様子がうかがえます。特に英語については高い意欲を示し、授業内容の理解度も高いものがあります。また、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」と回答する生徒の割合が高い傾向を示していました。

【生徒質問紙から】

右のチャート図は学習への関心や生活に関わる意識をまとめたものです。内側の破線が全国平均値です。

「英語の学力」「英語への関心」に加え、「生活習慣・学習習慣」が突出して高い値を示しています。基本的な生活習慣や、塾などを含めた家庭での学習習慣が身に付いているかどうかという観点であることから、保護者の皆様方にしっかりと支えていただいている様子がうかがえます。

「自己有用感」については、“自分にはよいところがある”“先生は認めてくれている”という実感がもてている反面、困りごとや不安があるときに、大人には相談できないと感じている生徒が目立っています。

また将来、“人の役に立つ人間になりたい”と答えている生徒の割合が大きい一方で、将来の夢や目標が明確になっていない生徒も多いことが分かりました。今後のキャリア教育の充実が求められていると思います。

全般的に多くの生徒たちが、学校で学ぶことを楽しいと捉え、仲間を大切にしながら互いに協力して学ぶことで充実感を得ることができているようです。